

# モモせん孔細菌病開花前防除情報

平成31年3月4日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

**越冬量が多いと予想します！開花前防除を実施しましょう！**

## 1 昨年の発生状況

昨年における本病の発生量は、6月下旬以降多い状況が続き（図）、9月下旬に行った巡回調査（18ほ場）では、発病葉率が30.4%（平年19.8%、前年9.9%）で、調査を開始した平成21年以降の過去9年と比較して2番目に高い状況でした。

本病は秋に風を伴う降雨が多いと、翌春の発生量も多くなります。昨年9月は台風21号および24号の通過に伴い、本県でも暴風雨がありました。

以上のことから、今春における本病原菌の越冬量は多くなっていることが予想されます。

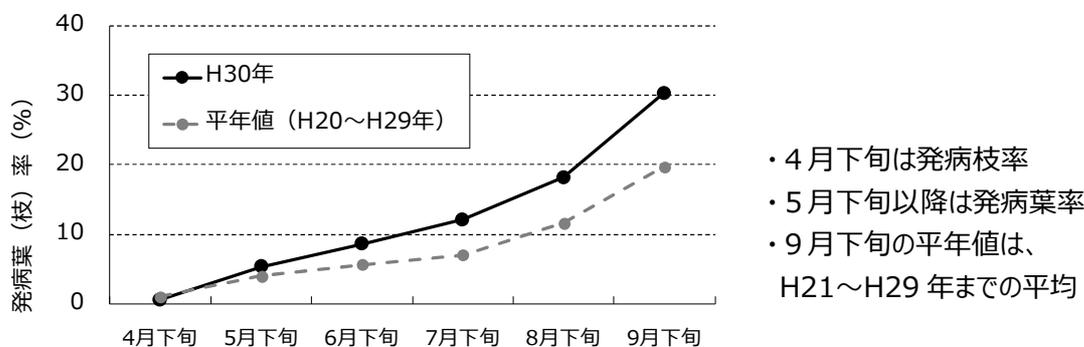


図 本病の発病葉（枝）率の推移

- ・4月下旬は発病枝率
- ・5月下旬以降は発病葉率
- ・9月下旬の平年値は、  
H21～H29年までの平均

## 2 防除対策

- (1) 本病原菌は、落葉痕部や枝の組織内で越冬しています。表を参考にして開花前の防除を徹底しましょう。
- (2) 越冬した本病原菌は、春になって気温が上昇すると、増殖して春型枝病斑を形成します。これが、今年の作の伝染源となります。春型枝病斑は、開花期頃に発生し、落花期には目立つようになるので、その時期にはほ場内をよく見回り、枝病斑は見つけ次第、除去しましょう。
- (3) 防風ネットの設置、補修を行うなど防風対策を実施しましょう。
- (4) スピードスプレーヤーで防除する場合、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。
- (5) 銅を含む薬剤は、開花後に散布すると薬害を生じる恐れがあるため、注意しましょう。

表 開花前に使用するモモせん孔細菌病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	成分	FRACコード
カスミンボルドー/ 銅シン水中和剤	開花前まで	500倍	3回以内	カスガマイシン、銅	24、M1
コサイド3000	開花前まで	1000倍	-	銅	M1
ICボルドー412	-（※）	30～50倍	-	銅	M1
チオノックフロアブル/ トレノックスフロアブル	収穫7日前まで	500倍	5回以内	チウラム	M3

※薬害を生じる恐れがあるので、開花後以降は使用しない。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、[http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code\\_pdf01.pdf](http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code_pdf01.pdf)を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。